



### コロナで外に出なくなった子どもたち

最寄り駅から都心まで電車で30分前後の西東京

市に住む。小学校教員をしていた家内が1年だけではあったが、自宅から少々離れた同市田無の小学校に勤務したことがあり、その後も親たちのご縁が続いていた。15年以上も前になるが、田無で「おむすびハウス」なる、16時過ぎから3時間ほど、自由に入り出ることができる子どもの居場所を開いていた。それがコロナの発生にともない休止を余儀なくされ、またコロナ後は、使用していた地区集会所の管理が変更となり、同様の利用が困難になって休止を続けてきた▼このため自宅周辺に空き家が出るのをじっと待っていたところ、この5月にやっと空き家を借りることができ、「おむすびハウス」を再開した。田無では2、30人の子どもたちが出入りし、月に1回は親も集まって懇親会も行っていたが、商店街もある田無と、まったくの住宅街の自宅周辺という条件の違いもあってか、見学に来る子どもはいても定着しない。家内と話をして辿り着いたのが、コロナで子どもが自宅等に閉じこもってしまい、外でみんなと遊ばないようになってしまった。子どもの生活環境が全く変わってしまったところの原因があるのではないか、ということである。確かに路上で遊ぶ子どもの姿を見ることは激減している。一人遊びが主となった子どもにも、どのような影響・変化をもたらすことになるのかいささか心配ではある▼現状、「おむすびハウス」は、自治会の会議やお年寄りのお茶会、映画会等に活用し、想定とは異なりお年寄り中心の利用になりつつある。あわてずゆつくりと子どもの出入りを増やしながら、お年寄り子どもたちが自然に交流する場となることを期待している。コロナの影響が大きいことをあらためて実感した次第。

(土着菌)